

日本とシンガポールをつなぐ  
経済・投資マガジン

# Bridge Singapore

Jan. - Mar. | 2025年シンガポールの投資動向とEDBの成長戦略  
**2026** | 2026年度予算案—日本企業への主要な影響と機会 など



<https://www.edb.gov.sg/ja.html>

シンガポール経済開発庁 (EDB) 公式サイトより  
最新情報をご確認ください



# DEVELOPMENTS IN SINGAPORE

Year-In-Review 2025

## 2025年シンガポールの 投資動向とEDBの成長戦略

シンガポール経済開発庁(EDB)は2月初め、2025年の投資コミットメントを発表した。シンガポールが先端製造業にとって重要なグローバル拠点であり、東南アジアにおける信頼できるハブ、そしてイノベーションを通じた価値創造に適した基盤としての継続的な重要性を証明するものだ。

### 多岐にわたる高付加価値投資

EDBは2025年、分断化が進む経済、予測不能な地政学的情勢、急速な技術革新といった不安定な世界環境にもかかわらず、近年と同水準の投資を確保した。2025年の設備・インフラへの計画投資を示す固定資産投資(FAI)は総額142億シンガポールドル(以下ドル、約1兆7230億円)となった。

人件費や研究開発費など、企業が事業運営のために計画する年間総事業費(TBE)は89億ドルに達した。今後5年間でこれらの投資が実現した場合、180億ドルの付加価値(VA)を生み出すことが見込まれている。

### 製造、統括拠点、研究開発への投資

固定資産投資(FAI)コミットメント額142億ドルのうち、約121億ドルは製造業からのものだった。製造業各社は、半導体やサーバー、電気自動車、バイオ医薬品・医療機器、スペシャリティケミカル、サステナブル素材、航空宇宙保守・修理・整備(MRO)サービスへの世界的需要の高まりに対応するため、工場の新設や既存施設の拡張を行っている。

例として、半導体フォトマスクメーカーのテクセンドフォトマスクは、グローバル展開を推進し、東南アジアとインドへの供給能力を強化するため、シンガポール唯一のフォトマスク生産施設を建設中だ。

また、スペシャリティケミカルメーカーのクラレは、域内需要の増加に対応するため、シンガポールにテクニカルセンターを設立した。年間総事業費(TBE)コミットメントの大部分は、統

括本部、専門サービス、研究開発部門によるものだった。

世界中の企業がシンガポールに海外戦略を担う統括拠点を構え、海外市場へのグローバル展開を推進している。Asahi Global Procurementは、調達業務全体へのサステナビリティの導入、デジタルおよびデータ主導による成長加速、グローバルサプライチェーン全体にわたる戦略的リスク管理のため、3つのセンター・オブ・エクセレンス(CoE)を設立した。

### 成長分野における進展

EDBは、AIなどの成長分野で引き続き付加価値の高い投資を誘致している。

複数政府機関からなるチーム「デジタルインダストリーシンガポール(DISG)」は2024年以降、ITや製造業企業による60以上のAI CoEの設立を確保した。各CoEは国内人材を活用し、AI実装を通じて企業の実際のビジネス課題解決を支援している。

DISGとGoogle、AWS、マイクロソフト、オラクルといったIT大手と連携する「Enterprise Compute Initiative」は、最大1200社のAI導入加速を支援している。深く競争力のある産業エコシステムを構築するため、多国籍企業と現地企業とのパートナーシップを一層強化し、共同イノベーション、技術移転、能力開発を促進している。

シンガポール企業庁(EnterpriseSG)と連携し、2025年には多国籍企業と現地企業によるパートナーシッププロジェクトを19件創出。企業の効率向上および新たなビジネスチャンスの獲得を支援した。

ジョホール・シンガポール経済特区(JS-SEZ)を通じた地域統合の深化にも進展が見られ、東南アジアへの新たなグローバル投資の誘致につながっている。

今後も、経済の地域統合をさらに深化させるため、近隣諸国と双方に利益をもたらすパートナーシップの強化を続ける。

## 今後の方向性と重点課題

EDBは、成長分野でのシンガポールの優位性を強化する。企業を支援するため、貿易や地政学的リスク管理といった分野でのコーポレート機能と専門サービスを拡充していく。

シンガポールに進出するグローバル企業の成長意欲を支えるため、熟練人材の強力なパイプラインの構築を続ける。

EDBのブン・チョンブーン長官は「2025年の投資コミットメントは、分断化が進む世界でも、シンガポールが依然としてグローバル企業にとって信頼される拠点であり、事業のレジリエンス強化と長期的な価値創造を実現する場であることを示している。厳しい世界環境の中で、EDBは既存の成長分野を強化し、新たな成長エンジンを構築し、人材に将来への対応力を高めさせることで、質の高い雇用を生み出す投資の確保に果敢に取り組んでいく」と述べた。

# シンガポール予算2026— 日本企業への主要な 影響と機会

ローレンス・ウォン首相兼財務相は2月、2026年度予算案を発表した。日本企業にとってもシンガポールでの事業戦略を見直し、新たな成長機会を捉える重要な契機となる。特に人工知能(AI)活用、人材確保、持続可能性への対応が今後の競争力を左右する要因となることが見込まれる。

## AI戦略による新たなビジネス機会

シンガポールのローレンス・ウォン首相は2026年予算案で、AIを戦略的優位性として活用する方針を打ち出した。

これに先立ちシンガポール貿易産業省(MTI)は2月10日、2025年の通年国内総生産(GDP)成長率は5.0%と発表している。特に製造業の成長率が8.7%と、前年の3.8%から大きく伸びた。人工知能(AI)の浸透による半導体、サーバーとその関連製品の需要が急増したことで、エレクトロニクス分野の伸びが著しかった。

シンガポール経済開発庁(EDB)もAIを成長分野の1つと位置づけ、付加価値の高い投資を誘致している。

政府は、ウォン首相が議長を務める国家AI評議会(National AI

Council)を新設し、国全体でAI戦略の方向性を示す予定だ。

まず、先端製造業、物流・港湾・貿易などのコネクティビティ、金融、ヘルスケアの4分野へのAI導入による変革に重点を置く。対象となる業界の企業は、政府が提供するデータセット、コンピューティングリソース、規制サンドボックス(仮想環境)を活用し、開発から導入まで、または試験運用から大規模実用化までの時間を短縮できる。

また、新プログラム「Champions of AI」では、AIを活用して事業全体を変革する意欲のある企業に対し、企業変革と人材育成の両面でオーダーメイドの支援を提供する。

## 税制・助成金制度の拡充

### 企業イノベーション制度(Enterprise Innovation Scheme、EIS)

条件を満たしたAI関連支出に対する400%税額控除が新設される。年間5万シンガポールドルまでの支出を対象とし、研究開発(R&D)、イノベーション、人材育成などの既存項目も継続される。

### 法人所得税還付

2025年の経済は好調だったが、コスト圧力や業務上の困難に直面している企業もあった。そこで、企業競争力維持のため、賦課年度2026年の法人所得税の40%を還付する。また、地元人材を最低1人雇用した営業中企業は最低でも1500ドル、上限3万ドルの給付を受ける。これらの措置は短期的なもので、今後も構造改革や変革を続ける。

### 労働ビザ規定の変更

シンガポールは、SkillsFutureプログラムを通じた国内労働力の技能向上支援を継続しながら、経済を強化するグローバル技能と人材に対して開放的な姿勢を維持する。バランスの取れたアプローチを確保するため、外国人労働者政策は変化する状況を反映して改良・更新される。企業は調整のための時間が与えられる。

新規申請では2027年1月から、更新申請では2028年1月から、就労ビザ(EP)の最低給与が5600ドルから6000ドル(金融業界では6200ドルから6600ドル)にそれぞれ引き上げられる。Sパスも3300ドルから3600ドル(金融業界では3800ドルから4000ドル)に引き上げられる。

## 企業エコシステムの強化

StartupSG Equity制度では、政府が有望なスタートアップへの民間資本を呼び込むために、初期資金を提供するアーリーステージでの資金調達に注力している。これに10億ドルを追加配分し、対象を成長段階企業にも拡大する。特にディープテックに重点を置く。

また、EDBはこれまで、多国籍企業からの投資誘致に重点を置いてきたが、今後は将来業界をけん引する可能性を持つ海外の高成長企業の誘致により一層力を入れていく。

この包括的アプローチで、企業エコシステムを強化する。

シンガポールへの事業進出やビジネス拡張へのサポートについては、EDBまでお問い合わせください。

# COMPANY CASE STUDY



写真提供:マイクロソフト

## マイクロソフトが東南アジア初のAI研究拠点にシンガポールを選んだ理由

世界をリードするIT企業が東南アジアで人工知能(AI)への投資を加速させる中、シンガポールは域内戦略的拠点としての存在感を急速に高めている。信頼性の高いガバナンス、充実した研究機関、世界トップクラスのデジタルインフラで知られるシンガポールは、先進的なAI研究を構想から実用化へと迅速に移行できる安定した環境を企業に提供している。

こうした背景により、マイクロソフトはマイクロソフトリサーチアジア(MSRA)の東南アジア初のAI研究拠点にシンガポールを選定した。AIによる社会的インパクトを地域全体に拡大する上で必要となる、高度な研究能力、豊富な人材、そして分野横断的な連携を他に類を見ない形で兼ね備えていると評価したからだ。

本インタビューでは、マイクロソフトのコーポレートバイスプレジデントであり、MSRAのマネージングディレクターでもあるジョウ・リードン博士が、基盤モデルやエージェント型AIから、ヘルスケアの変革、さらには東南アジア向けAIシステムに至るまで、マイクロソフトの次世代AIイノベーションをシンガポールがどのように可能にしているかを語る。

### Q: マイクロソフトが東南アジア初のAI研究の拠点としてシンガポールを選んだ理由は。

ジョウ(以下A): マイクロソフトは進出するすべての地域で長期的視点に立った展開をしている。シンガポールも例外ではない。シンガポールは、金融、医療、先端製造業などの分野で世界的評価の高いハブとして広く認識されている。これらの産業では、複雑なデータを扱い、高い安全性と信頼性が求められるとともに、新たなAIシステムを試すための多様で豊かなユースケースが存在することから、先進的なAI活用に非常に適している。

マイクロソフトはシンガポールの大学や産業界と数十年にわたりパートナーシップを築いている。世界トップクラスの研究機関、先見的な政策、分野を横断する強力な連携、そして文化的多様性が融合しており、研究成果を産業界での具体的な価値へと結びつける理想的な環境が整っていることを実感している。マイクロソフトリサーチ(マイクロソフトの研究部門)が存在感と影響力を地域全体で拡大する中、シンガポールはアジアと世界を結ぶ戦略的なゲートウエーとして際立っている。

### Q: AIのセンター・オブ・エクセレンス設立を目指すグローバル企業にとって、シンガポールが魅力的な拠点である理由は。

A: シンガポールは、豊富な人材、多様な産業、強力な政府支援、そして国家AI戦略2.0(National AI Strategy 2.0)のような先見的な政策により、イノベーションの拠点として非常に魅力的だ。企業がAIを構築・検証し、グローバル展開する上で、他に類を見ないほどスムーズな環境を提供している。

「シンガポールの大きな差別化要因の一つが、包括的なAI人材基盤だ。高度な研究力と優れたエンジニアリング能力に加え、多言語・異文化への高い適応力を備えた人材が揃っている。さらに医療、金融、物流といった要求が高度な分野において、基盤モデルを信頼性が高く資源効率にも優れたソリューションへと実用化できる、実装力の高い開発者も育成されている。こうした強みが、東南アジアの多様な環境において効果的かつ公平に機能するAIソリューションの開発を可能にしている。」

マイクロソフトリサーチ  
アジアマネージングディレクター  
ジョウ・リードン博士

シンガポール経済開発庁(EDB)の専門的なスキルを習得するためのプログラム「Industry Postgraduate Programme(IPP)」など、政府主導の取り組みがこの人材基盤の維持を支えている。特に注目すべき例が、MSRAシンガポール初の地元出身研究者シュー・シンシン博士だ。彼のマルチモーダルAIや基礎モデルに関する研究は、シンガポールの人材が最先端の研究と実社会での価値創出をどのように橋渡ししているかを表している。

私たちはシンガポールを、世界中から優れたAI人材が集まる拠点であると同時に、共同博士課程や実践的な研究の機会を通じて地域の人材育成を担う場であると考えている。開発されたAIを東南アジア全体へ責任ある形で展開していくための推進役としての役割も果たしている。

## Q：信頼性が高く責任あるAIに関する世界的な基準の形成で、シンガポールはどのような役割を果たしているのか。また、MSRAはこれをどのように活用する予定か。

A：シンガポールは、信頼性が高く責任あるAIに関する世界的な基準形成を先導する上で、独自の強みがある。その強みは、野心的な国家的AI戦略と、透明性が高く国際的に信頼された規制フレームワークの組み合わせにある。AIベリファイ財団の体系的テスト手法(Testing Framework)や、企業がAIシステムの安全性や公平性を自己チェックできるオープンソースのテストツール(Toolkit)のようなツールは、責任あるAIの原則運用化の世界的指標となっている。世界的AIハブとして、シンガポールは技術的な裏付けがあり、世界的に適用可能な基準を推進するために必要な規制上の明確性を提供している。

このガバナンスモデルは、AIが社会システムや公共生活とどのように関わるかを探求する学際的研究で、MSRAの中核的研究である「Societal AI」を補完する。

MSRAシンガポールの研究拠点ではこの分野に深く取り組み、地元の研究者と連携し、Value Compass枠組みを活用して、AIシステムを東南アジアの文化的価値観や倫理原則に適合させている。これで、より説明責任が高く、透明性があり、人間中心のAIの発展を推進している。

## Q：シンガポールの研究拠点はどのように成長し、マイクロソフトリサーチのより広範なAI研究の優先分野に貢献していくのか。

A：マイクロソフトリサーチは、マルチモーダルモデル、ドメイン特化型基盤モデル、エージェント的推論、セーフティ技術といった基礎研究と、大規模展開可能な産業レベルのアプリケーションとを結びつけている。これにより、さまざまな分野で具体的な成果を生み出している。

MSRAシンガポールは地元業界パートナーと緊密に連携し、AI変革を模索している。例えば、公営診療所運営SingHealthと連携し、同機関の高解像度病理データセットを活用して、より個別化された分析や正確な診断を可能にするAI機能を開発することで、精密保健の推進に取り組んでいる。これにより、医師による患者一人ひとりに合わせた的確な治療計画の策定を支援する。

また、シンガポール国立大(NUS)と協働し、知覚・言語・行動を統合したベンチマークの高度化を通じて、複雑な操作タスクへの対応を可能にする身体知能および空間知能の研究にも取り組んでいる。これらの取り組みは、シンガポールを拠点に運用へと展開していく多様な実社会アプリケーションの一例だ。



## Q：東南アジアのように多様性に富む地域でAIイノベーションを推進する際、固有の課題と機会にはどのようなものがあるのか。

東南アジアは、デジタルに精通した若年層の人口と、フィンテックから電子商取引にいたるまでのサービス普及拡大にけん引され、デジタルや経済成長の重要な転換点を迎えている。応用AIの分野においても、世界で最もダイナミックなテストベッドの一つになりつつある。しかし、東南アジアの言語、文化、経済、規制における多様性は、拡張可能なAIソリューションの開発に複雑さをもたらしている。モデルには高い文化的・言語的適応力が求められるとともに、異なるデータ成熟度やインフラレベル、急速に変化する規制環境に対応できなければならない。

一方で、こうした多様性は、包括的で資源効率の高いAIを開発するために類を見ない機会を提供する。我々のマルチモーダル基盤モデル、人間中心のAI、社会貢献型AIの分野での取り組みは、言語の壁を乗り越え、文化的ニュアンスを尊重しながら、同一の成果をもたらすことに貢献している。地域特有のデータセットや、医療、金融、物流、スマートシティなどの分野におけるデジタル化の進展は、社会に大きな影響を与えるAIソリューションを生み出すための肥沃な土壌となっている。

## Q：基盤モデル、エージェント型AI、マルチモーダル知能といった分野で、AIそのものは研究の未来をどのように変革しているのか。

A：マルチモーダル知能やエージェントシステムを基盤とする大規模な基盤モデルの登場で、モデルを一から学習させる必要性が低減し、産業用AI、医療、空間知能といった分野において、迅速なプロトタイピングや実験の高速化が可能になった。

知的AIエージェントは、仮説生成から実験設計、データ解釈にいたるまで、従来は人間だけでは実現が難しかった複雑で多段階にわたる研究ワークフローでの推論、計画、自律的実行が可能となり、開発サイクルを劇的に短縮している。例えば、MSRAの独自技術「RD-Agent」は、文献の選別、アブレーション実験の実行、研究結果の統合を自動化することで、従来は数カ月を要していたプロセスを数週間で完了する。インテリジェントな研究開発のコパイロットとして機能し、研究者が作業ではなくアイデア創出そのものに集中できるようにする。

特に研究開発や複雑な科学研究で、AIは受動的なツールから能動的な協働者へと進化し、発見のスピードを大きく加速させる存在となっている。

本記事は EDB 英語ウェブサイト内記事「Why Microsoft chose Singapore as its First Hub for AI Research in Southeast Asia」の抄訳です。全文は EDB 日本語ウェブサイトでお読みいただけます。

# A\*STAR in Research, Innovation and Enterprise 2030

Sharpening Research for Strategic Impact



写真提供:A\*STAR

## シンガポールの370億SGD 研究・イノベーション 投資が生み出す実社会への影響



シンガポール政府の国家研究開発新5カ年計画「RIE2030」の下、科学技術研究庁(A\*STAR)は、半導体からメドテック(medtech)、デジタル技術に至るまで、先端研究とイノベーションを牽引するシンガポールの能力を強化する。

シンガポールは、激化する世界競争、人口動態の変化、気候変動による圧力、急速な技術革新に対応している。住民の健康改善や製造業の競争力維持、脱炭素化の加速、信頼性の高いデジタル能力の構築に至るまで、研究活動をいかに効果的に実用化するかが私たちの未来に大きく影響する。

国家研究開発新5カ年計画「リサーチ・イノベーション・エンタープライズ(RIE)2030」は、インパクトの大きな分野に重点を置き、研究成果の市場導入を加速させるとともに、長期的な競争力を支える人材基盤を育成している。

科学技術研究庁(A\*STAR)はRIE2030に沿い、シンガポールで科学的発見と産業界および社会のニーズを結びつけるための中心的役割であり続ける。A\*STARは、共用研究プラットフォームの構築、実用化へのプロセス強化、産官学の連携促進を通じて、研究の卓越性を実社会の課題解決策へと転換させている。



写真提供:A\*STAR

## 半導体：グローバルバリューチェーンの重要拠点としてのシンガポール

A\*STARとシンガポール経済開発庁(EDB)が主導する重点戦略「半導体RIEフラッグシップ」は、付加価値の高い研究開発と先端製造の拡大を通じて、世界の半導体研究開発エコシステムでのシンガポールの役割を強化する。また、半導体イノベーションを通じて、ディープテック系スタートアップや地元企業の事業規模拡大を可能にする。

この分野でのA\*STARの機能を示す例として、近年のシリコンフォトニクス技術の進展を目的としたグローバルファウンドリーズとの協業がある。高度な研究開発能力を活用して製造能力の拡大を実現、サプライチェーンの強靭性を強化する。そして次世代半導体バリューチェーンでのシンガポールの地位強化を目指す。

## バイオメドテック・バイオものづくり：科学を世界的ベンチャーへ展開

シンガポールのバイオメドテック分野のエコシステムは着実に発展している。A\*STARから派生したがんの早期発見技術開発新興企業ミレックス(Mirxes)やLucence、Respiree、Nuevocorなどが世界市場で商業的な成果を見せている。

RIE2030の下、A\*STARは研究とその実用化を推進することで、高品質で商業化可能なイノベーションを生み出す基盤強化を進めている。診断技術開発研究所(DxD Hub)、実験的薬剤研究開発センター(EDDC)、核酸医薬品開発構想(NATI)などの基礎研究を実用化につなげるトランスレーショナル・プラットフォームは、開発リスクを低減し、市場投入までの時間を短縮するとともに、研究者と業界パートナーや投資家を結び付けている。

## 人的潜在力：健康と医療の改善への貢献

シンガポールで最大かつ最も包括的な出生コホート研究の「Growing Up in Singapore Towards healthy Outcomes (GUSTO)」は、乳幼児期および家族の健康に関するシンガポール取り組みに役立つ貴重な研究データを生み出している。その研究結果は、妊娠糖尿病検査や幼児のスマホ・タブレット使用時間と食習慣に関する国の政策やガイドラインの基になっている。

これらの研究を基に、A\*STARは包括的思春期研究プログラム

(IARP)を支援している。これは青年期発達を左右する生物学的、心理社会的、デジタル、環境的要因の理解を深めるため、GUSTOを含む6つの大規模コホート研究を統合したものだ。得られた知見は、より健康的な人生の歩み、就労準備態勢、長期的な社会的成果を支援する、エビデンスに基づく介入策の指針となる。

## デジタル技術：AIと量子技術の責任ある拡張

AIや量子技術は生産性と競争力の基盤となりつつあるが、その価値は実社会での実装可能性と信頼にかかっている。シンガポール国家量子局(National Quantum Office)と量子コンピューティングの米クオンティニウムは、2026年からシンガポールに世界最高水準の量子コンピュータ「ヘリオス」を設置するほか、応用研究、人材育成、および産業関連の量子アプリケーションの推進を目的とした新たな研究開発・運用センターも開設する。

RIE2030に合わせ、A\*STARはAIエンジニアリングと量子技術の実用化能力を強化し、組織が最先端の研究開発成果を安全かつ責任ある形で大規模展開可能なソリューションへと転換できるよう支援する。

## 脱炭素化：研究と実社会への導入をつなぐ

都市課題解決と持続可能性に関する研究は、よりサステナブルで強靭なシンガポールの実現に貢献している。実際の産業環境下で革新的なソリューションを機能させるため、A\*STAR傘下研究機関、化学・エネルギー環境持続可能性研究所(ISCE<sup>2</sup>)が提供するジュロン島の実証基盤「Low-Carbon Technology Translational Testbed(LCT<sup>3</sup>)」では、企業が炭素利用、水素、持続可能な燃料などの低炭素技術を実際の産業環境で試験・大規模展開することが可能だ。

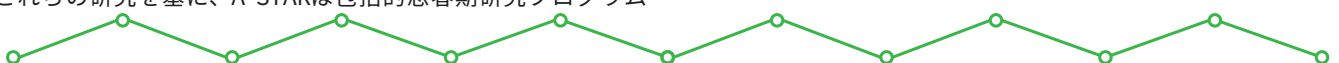
LCT<sup>3</sup>は、技術的なリスク軽減や実装までの期間短縮で、シンガポールの業界主導型の低炭素研究開発・イノベーション拠点としての地位を強化している。

## 人材：イノベーションの原動力

人材は常にRIEエコシステムの基盤だ。A\*STARは2001年以降、1900人以上の博士研究者を育成し、そのうち80%以上が学界、公共研究機関、産業界を通じてシンガポールのRIEエコシステムで活躍している。

A\*STARは将来を見据え、量子コンピューティングや半導体などの分野で新たな奨学金を通じて地元人材を育成している。同時に「Entrepreneurial Investigatorship」や「Singapore Research Attachment Programme」などの取り組みを通じて、海外から研究者や起業家人材をシンガポールに迎え入れている。

本記事はA\*STARのLinkedIn掲載記事を許諾を得て翻訳したものです。詳細は[www.a-star.edu.sg](http://www.a-star.edu.sg)をご覧ください。





SINGAPORE - JAPAN  
DIPLOMATIC RELATIONS  
1966 - 2026

# シンガポール・ 日本外交関係樹立 60周年

## 日本企業とシンガポールの深い絆

2026年はシンガポールと日本が外交関係を樹立して60年目に当たる。建国当初から現在まで、多くの日本企業がシンガポールの経済に寄与し、共に発展してきた。ここでは、興味深い日本企業とシンガポールとの深い絆の一部を豆知識として紹介する。

### 荏原製作所

#### 隣国からの水供給を支えるポンプ、マラーイオンにも活躍

1962年の水協定に基づき、マレーシアから原水を輸入しているシンガポール。公益事業庁(PUB)が管理するジョホール川水処理施設(JRWW)では、1日最大2億5000万ガロン(約11.4億リットル)を取り込み、処理したうえで国内へ供給している。ここで稼働するポンプの約9割が荏原製作所製であり、その技術が国家の生活基盤を支えている。

また、シンガポールの象徴「マラーイオン」の噴水にも同社のポンプが採用されている。海水を汲み上げるために特別設計されたポンプが、あの力強い水流を生み出している。

### 川崎重工

#### シンガポール MRT 開業を支えた日本の車両

1987年のMRT開業時、最初の車両を納入したのは川崎重工を中心とする日本企業連合だった。1986年から1989年にかけて366両、さらに1999年から2001年にかけて126両が納入された。同社はその後も車両供給を続け、約30年にわたり納入および保守を通じて、シンガポールの屋台骨である輸送システムの安定稼働を支え続けてきた。2026年2月には、公共交通運営SMRT Corporation Ltdと鉄道車両の技術および保守最適化に関する協力覚書(MOU)を締結し、900両以上の保守を担う予定だ。

### 三菱重工

#### 日本に先行した道路課金システムの導入

シンガポールで車に乗れば目にする電子式道路課金(ERP)システムの車載器は、三菱重工が供給している。同社は1995年、陸上交通局(LTA)からERPシステムを受注し、1998年に世界で初めて本格運用が開始された。日本のETCと類似の仕組みだが、日本に先駆けて実用化されたものである。2007年には非接触型カード対応の車載器を受注し、2016年には衛星測位(GNSS)を活用した次世代ERP(ERP2.0)をシンガポールの現地IT企業と共同で受注した。ERP2.0は2027年1月からの本格運用が予定されている。

### セイコー

#### 工場開所式には建国の父も出席

セイコーにとって、シンガポールは初の海外生産拠点だ。1976年の工場開所式には故リー・クアンユー元首相が出席。同工場は、ロボット管理を導入した世界初の精密時計工場として当時大きな注目を集めた。リー元首相は後年、日本企業の進出がシンガポールの精密加工産業の礎になったと述懐しており、同社はその象徴といえる。現在もシンガポールのクリーンルーム内の自動ラインで、メカニカルおよびクォーツのムーブメントを生産し続けている。





## 住友化学

### ジュロン島の原点となった、日星政府出資の石油化学プロジェクト

現在、世界有数の石油化学ハブとして知られるジュロン島。その出発点となったのが、住友化学が主導した、シンガポール初のエチレンクラッカーを中心とする石油化学コンビナートである。1970年代、日本政府の海外経済協力基金と民間企業が出資し、シンガポール政府との共同プロジェクトとしてPetrochemical Corporation of Singapore (PCS) が設立された。第一次・第二次オイルショックが続く不透明な経済環境の中で始まったこの挑戦は、エチレンを核に関連産業を呼び込み、現在の化学産業集積の礎となった。このプロジェクトを契機として、日本の化学メーカーの進出が進み、シンガポールは石油化学事業の国際展開拠点の一つとなっている。

## 竹中工務店

### チャンギ空港の発展を支えて半世紀

1974年にシンガポールへ進出した竹中工務店は、1978年のチャンギ空港第1ターミナル建設を皮切りに、ターミナルの新築、大規模改修などを一貫して担当し、空港の発展を長年にわたり支えてきた。特に、1日数百便が離着陸する運用を維持したまま行う改修工事は難易度が高いが、第1・第2ターミナルの拡張改修はいずれも同社が担った。同社はシンガポールをアジア地域の統括拠点と位置づけ、域内での事業運営を一体化することで、アジア市場における案件対応力の強化にもつなげている。

## 五洋建設

### 国土の約10%を創出した「埋め立て」の立役者

シンガポールの国土拡張を60年にわたり支えてきたのが五洋建設だ。1964年のジュロン・シップヤードのふ頭工事以来、トウアス港、チャンギ空港、ジュロン島などの主要プロジェクトの埋め立てに従事。同社が手がけた埋め立て面積は累計66km<sup>2</sup>に達し、これはシンガポールの総国土面積の約10%、埋め立て総面積の約40%に相当する。現在は海上土木のみならず、都市鉄道(MRT)や高速道路、大型劇場エスプラネードなどの建築物でもそのプレゼンスを示している。

## 清水建設

### 公団住宅の安定供給に貢献

清水建設は、日本人には馴染み深い高島屋が入る「ニーアンシティー」をはじめ、商業施設や複合開発、改修案件を数多く手掛け、街並み形成に関わってきた。同社の貢献はランドマークに留まらず、公団住宅(HDB)建設にも深く及んでいる。1981年には、日系企業として初めて約1万5000戸に及ぶ大規模なHDBプロジェクトを設計施工で受注した。工期短縮と材料費・労務費の削減のためシンガポールにプレキャスト(PC)工場も設立。この工場はプロジェクト完了後も稼働し、現地の技術者への指導を通じて、シンガポールの住宅安定供給と建設の工業化を大きく前進させた。同社は住宅供給に貢献する一方で、世界中のコントラクターが競い合うシンガポールを、最先端プロジェクトに挑戦できる「成長の場」と位置づけ、自社の技術力向上にもつなげてきた。

## 南洋理工大・大阪大学

### 日星連携で開発、昆虫サイボーグが人命救助へ

日本の科学技術振興機構(JST)の支援のもと、南洋理工大学(NTU)の日本人研究チームと大阪大学・広島大学が、災害救助用「昆虫サイボーグ」を効率的に操るアルゴリズムを共同開発。さらに、センサーを搭載した小型バックパックを昆虫に装着する工程もAIで自動化し、1匹あたり約1時間から1分強へと短縮することに成功した。2025年3月のミャンマー地震での試験運用を経て、がれきの下の生存者を発見する次世代の救助手段として期待されている。

## 中外製薬

### シンガポール生まれの「抗体」が、世界初のグローバル承認薬へ

中外製薬が2012年に設立したシンガポールの創薬研究拠点(Chugai Pharmabody Research)から、画期的な成果が生まれた。同拠点の独自技術によって創製された「抗体」を基に、開発が進められた発作性夜間へモグロビン尿症治療薬「ピアスカイ」だ。ピアスカイは自己投与可能な皮下注製剤である点も特徴で、通院負担の軽減など患者の利便性向上が期待されている。2024年から2025年にかけて、日米欧などで承認を取得。シンガポールの研究拠点が創薬の源流(抗体の発見・創製)を担った医薬品として、主要市場でのグローバル承認を達成した初めての成功事例となった。中外製薬の2025年の売上は、対前年比8%の伸びを記録したが、既存の医薬品の健闘に加えて、ピアスカイの上市も売り上げ増に貢献した。

## ヤクルト

### フルーツフレーバーで広がる現地展開

乳酸菌飲料でおなじみのヤクルトは、1979年にシンガポールに工場を設立し、以来、現地生産の製品を家庭に届けてきた。日本市場とは異なり、シンガポールではグレープ、アップル、オレンジといったフルーツフレーバーが展開されている。近年ではインドネシアや中国でも同様の展開が見られるが、シンガポールは比較的早い段階から導入した市場の一つとされ、現在も複数のフレーバーが販売されている点で特徴的である。

## 日清食品

### カップヌードル「ラクサ味」は日本に“逆輸入”

1970年代、シンガポールでの即席麺の現地生産は明星食品によって始まり、2006年に日清食品が同社を子会社化したことで、現在は日清食品グループの事業として展開されている。現地では、ラクサ味などシンガポールの食文化を反映した独自フレーバーが開発・販売され、広く親しまれている。こうした現地発の味や知見は、日本向け商品にも活用されている。海外現地法人との協力で開発された「カップヌードル エスニックシリーズ」の一つとして、2015年に日本で発売された「ラクサ味」は、シンガポールの味を日本向けにアレンジしたものだ。現地の味が日本で商品化された“逆輸入”の好例となっている。





# Investment news

最新ニュースのハイライト

# in Singapore

**国家宇宙庁設立、Google・マイクロンのAI・半導体投資拡大、バリーカレボアのチョコレートAIセンター開設、住友理工の細胞農業検証開始、OURAとNUSの予防医学研究など、シンガポールの最新企業進出と研究開発動向。**

1

## 国家宇宙局、4月に設立

シンガポール政府は国家宇宙庁(NSAS)を4月1日に発足させると発表した。貿易産業省(MTI)が管轄する。

シンガポールには現在約70社の宇宙関係企業が拠点を構え、宇宙関連部品の設計、製造から衛星サービスで、約2000人が多様な職に就いている。

NSASはそれまで宇宙関連を担当していた宇宙技術・産業企画室(OSTIn: Office for Space Technology & Industry)を基に、研究開発(R&D)エコシステムの強化、宇宙産業の開発、国際提携推進を進める。また、新たな機能として、国内の宇宙関連機能強化、宇宙の安全性と持続可能性を確保しながら、イノベーション促進と企業活動支援に資する法律と規制策定も新たに行う。

2

## アンビック・マイクロ、オフィス正式開所

超低消費電力半導体ソリューションの米アンビック・マイクロ(Ambiq Micro)は、シンガポールオフィスを正式開所した。また、シンガポールでの複数年にわたる研究開発プログラムも発表した。次世代エッジ人工知能(AI)技術の推進と、AmbiqのSPOT®(サブスレッショルド電力最適化技術)のライセンス供与に向けた開発をさらに進める。新オフィス開所で、研究、エンジニアリング、設計、製品開発、事業開発各チームを拡大する。すでにシンガポールの高等教育機関、公的研究機関、地元企業との提携も開始し、人材育成、応用研究、エコシステム連携の促進を行っている。

3

## バリーカレボア、グローバルイノベーションセンター開所

スイスのチョコレート・カカオ豆製品バリーカレボア(Barry Callebaut)はサイエンスパークにグローバルイノベーションセンター(GIC)を開所した。世界初のチョコレート・カカオ豆AIセンター・オブ・エクセレンス(CoE)とカカオコーティングのCoE、顧客体験施設も併設する。また、北部セノコのチョコレート製造施設にも最先端の試作品研究室を設立した。

特にカカオコーティングCoEは同社初のカカオコーティングに関するイノベーション、専門知識、カスタマーソリューション専門のCoEだ。コーティングやフィリングでの画期的な製品開発に注力する。

バリーカレボアはシンガポールに進出して約30年で、域内最大のチョコレート生産施設と、アジア太平洋・中東・アフリカ地域統括本部、GICからなる。

4

## Google、AI関連投資拡大

GoogleはシンガポールでのAI投資を拡大すると発表した。研究開発拠点を拡張し、ソフトウェアエンジニアリング、UXデザイン、研究科学の専門チームを拡充する。新たな取り組みとして、社会課題の解決、企業イノベーションの推進、AI対応人材の育成、安全なエコシステムの構築に焦点を当てる。

Googleは2007年からシンガポールにアジア太平洋地域統括本部を設置し、約3000人を雇用している。これまでにデータセンターやクラウドリージョン4カ所やディープマインド・リサーチ・ラボなどの研究施設などに50億米ドル(約7900億円)を投資してきた。

5

## マイクロン、メモリー製造施設着工

米半導体大手マイクロン・テクノロジーズは北部に新しい製造施設の建設を開始した。既存のNAND製造施設敷地内に位置し、最高約70万平方フィート分のクリーンルームを今後10年で約240億米ドルを投資する計画だ。ウエハー生産開始は2028年下半期を予定している、AIやデータ重視のアプリが急速に拡大する中で、高まるNANDテクノロジーへの市場需要に対応する。

マイクロンはすでにHBM先端パッケージング製造施設製造も発表しており、2027年の供給開始に向け順調に進んでいる。

2施設の完成で、計3000件の雇用を生み出すことが見込まれる。

6

## ハリバートン、A\*STARと研究施設設立

石油開発サービスの米ハリバートンはシンガポールの科学技術研究庁(A\*STAR)と次世代エネルギーエクセラレータ・ラボ(NEX Lab)の共同設立を発表した。ハリバートンの世界的な専門知識とA\*STARの国内イノベーションエコシステム

NEX Labはエネルギー産業向け先端坑井仕上げ技術の開発と商用化を加速することを目的としている。350万ドルを投じた同事業は、研究、エンジニアリング、試験で提携する。

ハリバートンは1973年にシンガポールに進出している。

7

## 住友理工とインテグリカルチャー、細胞農業生産プロセス検証開始

住友理工(愛知県名古屋)は、細胞農業の社会実装を見据え、インテグリカルチャー(東京都文京区)と戦略的パートナーシップに関する覚書を交わした。共同開発中の細胞培養バッグを用いた生産プロセスの検証をシンガポールで開始する。

シンガポールはすでに一部細胞性食品が販売されているなど、細胞農業先進都市となっている。インテグリカルチャーは2026年内の承認申請を目標として、シンガポールでの生産委託先Cell AgriTech Pte Ltdに2リットル培養バッグを試験導入し、家禽由来細胞を用いた生産プロセスの検証を開始する。

8

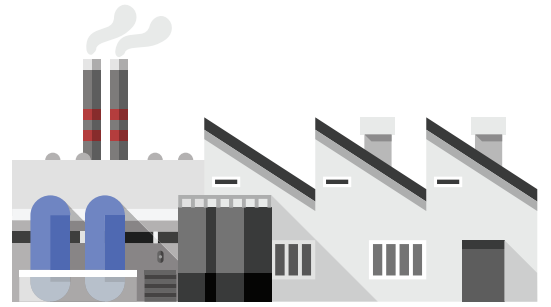
## OURA、シンガポール国立大と研究室を設立

フィンランドのウェアラブルリング開発・製造のOURAは、シンガポール国立大(NUS)医学部の睡眠・認知センターと合同で、個人に合わせた予防医学に関する研究を行う研究室を設立した。OURAにとってアジア太平洋地域初の研究開発部門となる。

NUS医学部内に設立の合同ラボでは、OURAリングで収集した実世界バイオメトリックデータと、NUSの数十年にわたる睡眠科学、心理学データ分析、認知神経科学の専門知識を活用し、睡眠や身体活動が他の健康分野にどのような影響を与え、よりよい結果をもたらすかを研究する。

OURAとNUSは過去6年にわたり、OURAリングの睡眠追跡精度評価など、複数の合同研究を行ってきた実績がある。

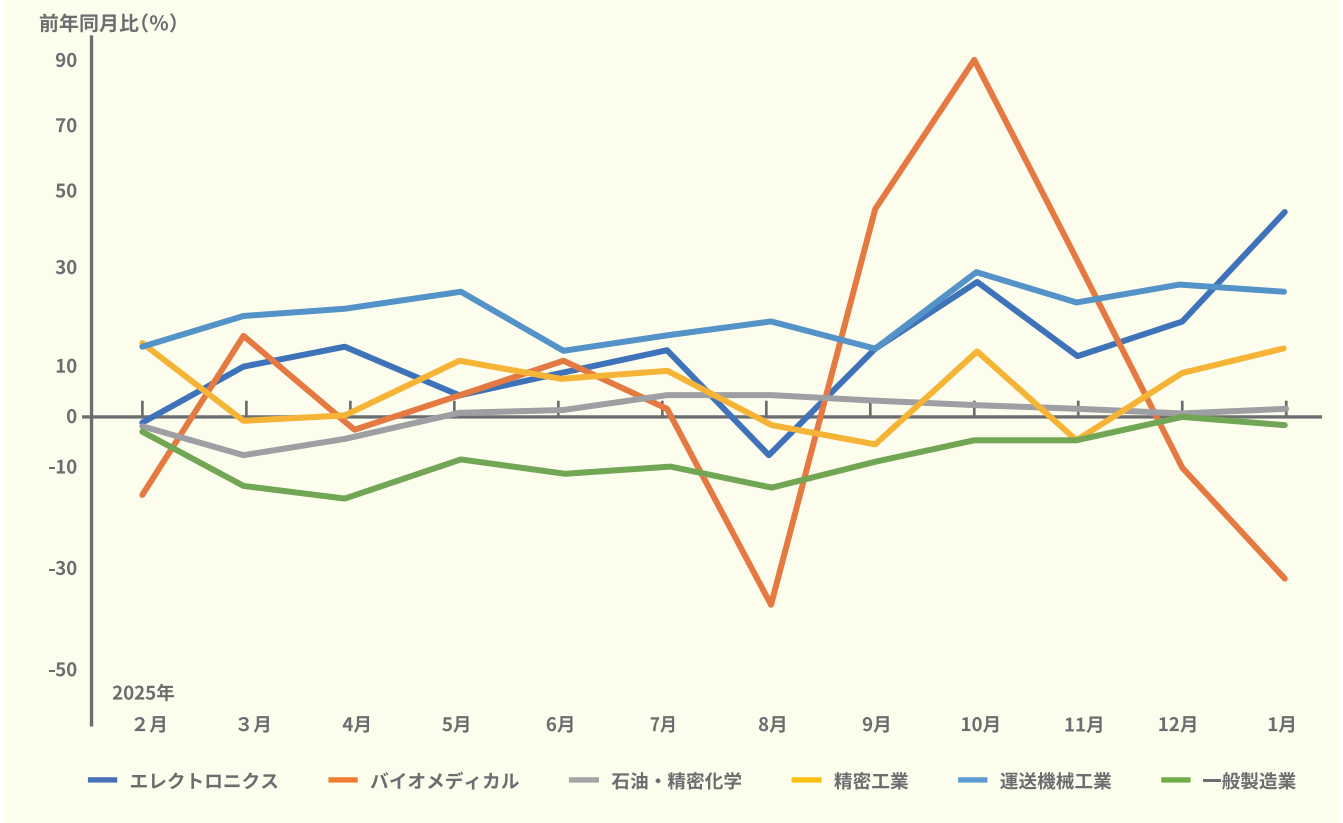
# MONTHLY MANUFACTURING PERFORMANCE



## ハイライト

シンガポールの 2026年1月の製造業生産高は、前年同月比16.6%増となりました。季節調整済みでは前月比5.3%上昇しています。部門別ではエレクトロニクス部門が前年同月比44.0%増でした。特に人工知能(AI)関連の活発な需要により、半導体分野で52%と高い伸びを示しました。交通エンジニアリング部門も25.2%増でした。中でも航空機保守・修理・整備(MRO)分野が40.4%増とけん引しました。

## 製造業生産高指数伸び率



日本とシンガポールをつなぐ  
経済・投資マガジン

**Bridge  
Singapore**

Jan. - Mar. 2026

発行：シンガポール経済開発庁 (EDB)  
▼本誌に関するお問合せは、以下にお願いいたします。  
シンガポール共和国大使館 産業部  
Tel. 03 (6812) 2951  
<https://www.edb.gov.sg/ja.html>  
E-mail [japan@edb.gov.sg](mailto:japan@edb.gov.sg)

**EDB:  
SINGAPORE**

シンガポール経済開発庁 (EDB)とは

経済開発庁 (Singapore Economic Development Board/EDB) は 1961年に設立された貿易産業省傘下の政府機関で、シンガポールの産業育成、投資誘致を担っています。「外資系企業誘致のワンストップセンター」として、海外20カ所以上に事務所を持ち、外国企業に投資先としてのシンガポールの情報を提供するだけでなく、世界の経済、技術、市場動向を把握することで、シンガポールで競争力を持ちうる産業や分野を育成するための経済戦略を立案しています。日本では、東京に事務所を構え、日本企業のシンガポール投資をサポートしています。

メールマガジン登録

